

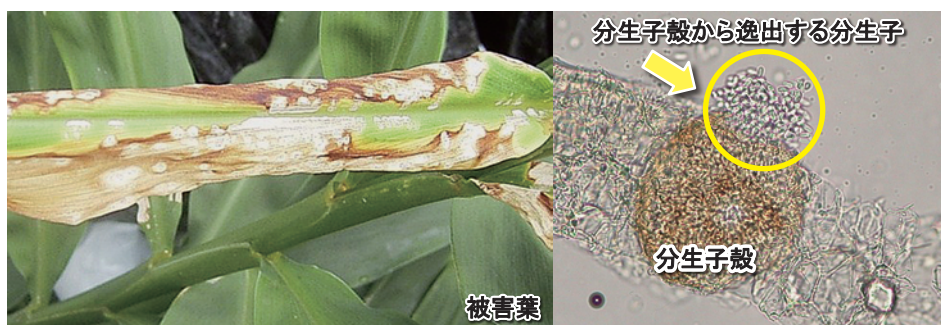
ショウガ白星病 (*Phyllosticta zingiberis*)



○前年の被害葉とともに、分生子殻の形で越冬し、翌年の第1次伝染源となる。翌年、分生子殻から分生子を飛散させて伝染すると考えられ、主に成長点から感染する。

○作土が浅く乾燥しやすいほ場、肥料切れの状態で発生しやすい。

ミョウガ葉枯病 (*Mycosphaerella zingiberis*)



○病原菌は、罹病残さとともにほ場に残り、次作の伝染源となる。

○発病は 15℃前後からみられ、気温が高いほど発病が多くなる。なお、病原菌の生育適温は 30℃付近である。

○胞子の飛散には水と温度が必要で、また葉の濡れ時間が長いほど、感染・発病率が高くなる。通常は、降雨によって伝染するため、施設栽培での発生はほとんどみられない。